

全日赤

平和対策ニュース

2021年
9月10日
2021-01

原水爆禁止2021年世界大会・WEB開催

禁止条約発効の共同をさらに進めよう

8月2日から9日まで、「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球の未来のために」をテーマに、原水爆禁止2021年世界大会が開催され、約9,000人が参加しました。核兵器廃絶の流れを強力に押し進める市民社会の運動や、国際政治をリードする国連や加盟各国のリーダーから、核兵器のない世界を実現する知恵と豊かな経験の報告を得て質疑応答も積極的になされ、「世界を動かす」決意を固めた大会となりました。

*大会の様子は日本原水協 YouTube チャンネルにダイジェスト版が紹介されています。視聴時間は10分程度です。

ヒロシマデー集会
ダイジェスト



ナガサキデー集会
ダイジェスト



赤十字国際委員会の総裁から連帯メッセージ

今年も原水爆禁止世界大会国際会議で、赤十字国際委員会の総裁から連帯のメッセージが届けられたことが発表されました。

原爆投下もたらした痛ましい記憶を心に留めつつ、継承に努め、長年にわたり犠牲者や生存者を支援してこられた原水爆禁止日本協議会（原水協）に対して、私たち赤十字国際委員会（ICRC）は心から感謝申し上げます。

（中略）

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、私たちが公衆衛生上の大規模な緊急事態に應じるなかで、医療体制の欠陥を浮き彫りにしました。こうした事態を、核兵器が使用された場合に置き換えれば、様々な困難を乗り越えて医療システムや人道支援が機能する見込みは薄いでしょう。準備ができないことは、未然に防ぐしかないので。

2021年1月22日に核兵器禁止条約が発効したことは、画期的な出来事でした。被ばくした方々の証言と体験、国際赤十字・赤新月運動の長年にわたる要請、そして揺るがぬ決意をもって活動されてきた人々のたゆまぬ努力があってこそ、私たちはこの歴史的な瞬間を迎えられたのです。条約は、核兵器を全面的に禁止し、その使用を道徳上も法律上も受け入れられない、ということを確認しています。戦闘行為に制限を設ける国際人道法に準拠して核兵器を使用する方法など、どう考えても思いつきません。

この条約が存在する理由。それは、凄惨な歴史が繰り返されないために、私たちが忘れてはならないからです。被ばく者の証言は、人類を「核兵器のない世界」へと導く道しるべです。私たち皆で語り継ぎましょう。本大会と、貴団体の今後の活動のご成功を祈念いたします。

ペーター・マウラー 赤十字国際委員会 総裁